

土佐の南国ルネサンス構想

7

大きな災害が起こり、その対策がいわれる昨今、忘れてならないのが「火の用心」。火は生活の基、毎日その恩恵をうける反面、油断し、軽々しくあつかうと厳しいしっぺ返しに合うことになる。

ご覧の建物は、消防屯所。シトミ（壁）いっばいに「火の用心」の文字。道行く人に強烈にアピールするこのアイデア、シェアしているし建物の全体のバランスもよい。なかなか効果的な方法だと感心した。いっそ白地を真っ赤にしたら、と考えるのは、素人考え？設計は、地元の若い建築士。今後建設されるであろう公共の建物に一目瞭然のアピールがあったとすれば、媒体としての意味も加味され、より楽しい、話題の豊富な、市民に愛される存在となりはしないか・・・若ものの新たな取組みと勇気あるアピールに拍手を送り、たたえるとともに、こんな公共施設が益々増える南国市であってほしいと思う。



基本構想の二本柱は、人が輝き、まちが煌めく。くまなくくりであるところを述べました。

今回は、人がキラリ輝くフレッシュアップの万策です。

熱き心の市民 キラリ輝く

▼人がキラリ輝くフレッシュアップを
図るため、ど
んなことに挑
戦していくの
ですか。
熱き心の市
民が、キラリ
輝いている南
国市としてイ
メージアップ
し、全国に誇
りうる、人が
キラリ輝くま
ちにしてい
こうとしてい
ます。
そして、市
民一人ひとり

人が輝き まちが煌めく



がライフステージの上で、心身ともに健康でありたいと思ふ心を起点にして、地域社会全体の健康・福祉につなげていこうというわけなんです。このため、四つのチャレンジを試みていきます。

▼ソフトウエアが中心になるわけですね。人材育成や福祉・文化など……。

一つは、地球の真ん中・南国市の顔づくりです。

▼南国市は地球の真ん中なんです。

地球は丸いものですから、南国市は「真ん中」です。隣の土佐山田町でも「真ん中」になりますけどね。地球規模で全国に、また、世界的に誇りうる「南国市の顔づくり」をしていこうというわけですね。話は大きいですけどね。そのため、個性と特性を最大限に生かした南国市のイメージアップ、市役所のイメージアップ、職場の意識改革に取り組みます。

これが南国市だ、と世界に通用するものをつくりたいですね。あったか南国市とか長尾鶏やごめんのネーミングも南国市ならではです。大学や高等教育機関の多いまちですから、若さとエネルギーに満ちあふれた、若者のまち、ターゲットをしばって、徹底した若者に魅力のあるまちにするとか……。逆に、世界一お年寄りにやさしい福祉のまちにするとか、いずれにしろ、南国市の顔、を創造していくのがチャレンジの一つ

アイデアポストより

未奈君でーす。市役所一階のロビーで、皆さんの建設的なアイデア、ユニークな提言を待っています。



いま部落は、そして……。

想文の一部を紹介しします。

一、部落想文の一例

【Aさん】

差別はいけないことだと頭ではわかっていても、日々の生活の中で考えたり、なくすために行動する

市民・県民の意識は？⑨

同和教育シリーズ

同和教育に対し、正しい理解をもつていただき、国民的課題でありまた同和教育解決のために、南国市では十四年前から同和教育推進講座を開設しています。

この講座は、同和教育について基本的なことを系統的に学習する講座で、さまざまな分野の方々が受講し、大きな成果を上げています。

では、どのような成果をあげているかを受講者からの感想

座を受講することにより、自分自身生活の中で、差別する側、される側になることがあるといふことがわかった。そのときそのとき、自分自身を見詰め直すことを怠らず、成長していきたいと思います。

そして、「いけないことはいけない」と、はっきり言える人になりたいと思っています。

長していきたいと思います。そして、「いけないことはいけない」と、はっきり言える人になりたいと思っています。

【Bさん】

同和教育を通して、私自身の差別性に気付きました。今までの私は、障害者を見てもかわいそうだとすぐに同情し、それが、優しさ、思いやりだと勘違いしていた。しかし、よくよく考えてみると、そこから結びつくのは自分ではなくて良かったという事だったのではないだろうか。今までの私は、その事にもまったく気づかずでした。また、そ

ういうことを改めて考えた事すらなかったし、自分は差別なんかしていないと思込んでいた。

しかし、同和教育を勉強していくうちに、自分自身の中に、また自分の身のまわりには、たくさん差別があるんだという事に気が始めた。同和教育については、まだまだ認識不足の私だが、これからもっともっと学習を重ね、正しい理解を深めていきたいと思う。

以上、二人の感想文を紹介しました。

同和教育推進講座を受講するまでは、同和地区に対するまちがった考え方を注入されており、同和地区に対する偏見や誤解をしていました。推進講座で部落の歴史や同和地区の実態、同和教育と自分たちとのかわりなどを学ぶなかで、自分自身の差別性や誤りに気づいた。これからは、自分なりにまちがった考えを持って人に「それは違う」と言える人間になりたい。という人が多くなっています。

役割を持って送れる人生を創造し、そのコミュニケーションの輪を広げていくことにより、キラリ輝くまほろばづくりを育てようというわけなんです。

▼女性が男性と共にあらゆる分野に参画する「男女共生社会」も目指してほしい。地方分権の時代ですから、真に地方自治を担っていく力が問われています。市民が主人公の市民参加の行政も望まれます。

そして、なんといっても教育

育です。創造力のある豊かな心を持った人材を育てていくことが重要です。国際交流で広い視野と豊かな心を育てることですね。一方、「一生勉強、一生青春」を合言葉に、生涯学習に力点を置いていくことも課題の一つです。市民一人ひとりの人権が尊重される社会づくりも大切です。

南国市の顔づくり、キラリ輝く人づくり、をお話ししました。次号は、保健・福祉・芸術・文化・スポーツのまちづくりを考えてみます。